



# 日本統計学会 会報 2007. 4.25 No. 131

発行 日本統計学会  
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2階  
(財)統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-5467-0483  
編集責任 田中 勝人(理事長) / 駒木 文保(庶務理事)  
谷崎 久志(広報理事) / 坂本 亘(広報理事)  
振替口座 00190-2-61361  
銀行口座 みずほ銀行広尾支店普通 1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

1. 会長就任のご挨拶 .....北川源四郎... 1	7. 「日本統計学会春季集会2007」の報告 .....田中勝人...11
2. 会長退任のご挨拶 .....山本 拓... 3	8. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について .....田中勝人...11
3. 2007年度統計関連学会連合大会(神戸大会)の 事務局・実行委員会からのお知らせ	9. JST戦略的創造研究推進事業への応募のお誘い .....田村義保...13
3.1 事務局からのお知らせ .....今野良彦... 5	10. シリーズ: 統計学の現状と今後
3.2 実行委員会からのお知らせ .....大谷一博... 5	10.1 「統計的コンサルティング」 .....大森裕浩・真木和彦...14
4. 2007年度統計関連学会連合大会(神戸大会)の プログラム企画について(第二報) ...狩野 裕... 6	10.2 「香港における統計教育」.....奥井 亮...16
4.1 研究報告の申込み ..... 6	11. 日本統計学会サーバの移転について .....坂本 亘...17
4.2 研究報告集用原稿の提出 ..... 6	12. 修士論文・博士論文の紹介 .....18
4.3 企画セッションのご案内 ..... 7	13. 公募情報 .....21
4.4 チュートリアルセッションのご案内 ..... 7	14. 評議員会議事録 .....22
4.5 市民講演会のご案内 ..... 8	15. 理事会議事録 .....23
5. 2007年度統計関連学会連合大会(神戸大会)の コンペティション講演のご案内 .....富澤貞男... 8	16. 新刊紹介 .....25
6. 丘本正先生の御逝去を悼む .....猪原正守・永田 靖・狩野 裕... 9	17. 事務局から .....26

1. 統計関連学会連合大会(日本統計学会75回大会)のお知らせが掲載されています。
2. 「日本統計学会春季集会2007」のアンケート結果が同封されています。

## 1. 会長就任のご挨拶

北川 源四郎(統計数理研究所)

評議員会での選出、会員による信任投票を経て、本年1月より日本統計学会の会長に就任いたしました。甚だ微力ながら、理事長、理事会メンバー、評議員の方々のご助力を頂きながら、学会の発展に尽くしたいと考えておりますので、会員各位のご協力をお願い申し上げます。

振り返ってみれば、20世紀最後の四半世紀、統

計学は困難な時期を迎えていました。その一因が、急速な情報化の動きに適切に対応できなかったことにあることは間違いのないように思われます。計測・通信・検索・計算の



全分野における急速な技術革新によって、情報社会が急速に形成されつつあったにもかかわらず、データ・情報・知識に関する専門家である統計科学の研究者からの貢献は十分ではなかったといわざるをえません。結果として、多くの大学で情報科学や情報工学の研究科や専攻が設置された一方で統計科学の地位が低下してしまったことは否めません。

しかし、21世紀に入って、また新たな局面を迎えています。学問対象が複雑化・大規模化するとともに、生命科学、環境科学や地球科学などの分野では計測技術の飛躍的發展によって、大規模データベースが構築されました。これに伴って科学研究の方法も大きく変化し、大規模な情報を活かして個別化した情報を取り出す技術、様々な情報を統合する技術なども必要になっています。また、一般社会においても、インターネットの発展によってWeb情報は生活に欠かせない情報源となりました。ユビキタス社会の実現も目前に迫り、いまや、人間が作り出したサイバー世界は実世界以上に重要なものとなりつつあります。その反面、あまりにも膨大な情報のために、有益な情報になかなか辿り着けないという皮肉な状況が発生しています。

このように情報社会の成立は新たな問題を次々と提起し、知識創造の学問としての統計科学への期待は再び高まりつつあります。日本統計学会はこれまで様々な改革を進めてきましたが、このような潮流を捉えて、会員一人ひとりの生き生きとした研究活動の基盤組織となるように、さらに改革していく必要があります。

このような観点からは、日本統計学会にはいくつかの対応すべき課題があります。

#### (1) 若手が参入する組織へ

若手研究者が望んで入会してくるような学会が望ましい姿に違いありません。その実現のためには、若者に夢を与えるようなグランドチャレンジが必要です。学会が自らそれを設定することは必ずしも適切ではありませんが、新しい挑戦を目指した研究会や研究グループ活動を支援することが

重要です。

また、学会誌、学会、シンポジウムの企画等においても若手や異分野研究者の参入を意識したものをとりあげるとともに、近年整備してきた学会賞の充実など、若手の意欲向上、研究活性化、就職支援等につながるような活動を重視していきたいと思います。過去20年以上、日本統計学会の会員数は1000名から1500名の範囲に留まってきましたが、学会の活性化の結果として、若手や他分野の研究者の興味を惹きつけ、会員数の増加や統計関連の科研費申請の増加に繋がることになれば喜ばしい限りです。

#### (2) 連携の強化

学問分野や学会の細分化への反省、学問分野の多様化・複雑化、学問分野の融合や新領域創造の必要性の認識などから、様々な分野で学会連合や合同大会の動きが見られます。日本統計学会でも、2002年度の大会から統計関連学会のいくつかの学会との合同開催となり、大会の参加者は800名を越える大規模なものとなりました。また、2005年には統計関連学会連合が設立され、その活動も本格化しつつあります。このような動きは、統計学界の発展に繋がるものと期待され、日本統計学会としても、今後積極的に推進していくことが必要だと考えています。

しかしその一方で、日本統計学会独自の企画が立てにくい、あるいはアイデンティティを確保しにくいと危惧する声も聞かれます。そこで、多くの方のご尽力により、今年3月には東京理科大学において春季集会を開催しました。来年以降については、今回の集会に参加された会員のご意見を参考にして、理事会で今後のあり方を検討していきたいと思います。

このほか、国際連携、分科会活動、大学院教育や試験における連携協力など、日本統計学会の活性化や会員のために必要な活動はいろいろと考えられます。

#### (3) 広報活動の強化と外部への働きかけ

知識社会を迎えて統計学の役割は益々重要になりつつあるにもかかわらず、一般社会や学術行政

における統計学への理解は未だ不十分です。日本  
学術会議の組織改革では、統計学研連は廃止され、  
現在は、数理科学、情報学あるいは経済学の委員  
会での活動を余儀なくされています。

その一方で、近年、数理科学や横断型の科学技  
術の重要性の認識は高まりつつあります。日本統  
計学会としても、統計関連学会連合や他学会等と  
の連携の下で、広報活動に取り組み一般社会の理  
解向上を図るとともに、学術政策当局への働きか  
けによって国の学術政策への反映、競争的資金に  
おける統計関連領域の確保などを実現して、会員  
の活動がしやすい環境を整備する必要があります。

このように学会の活性化および発展のために取  
り組むべき課題はたくさんあります。会員のご意  
見やご希望を拝聴しながら、理事会を中心に会員  
ひとりひとりにとって有用な組織となるよう学会  
活動を展開したいと考えております。会員各位の

ご支援ご協力をお願い申し上げます。

会長略歴：

北川源四郎（きたがわげんしろう）1948年生  
理学博士

1971年 東京大学理学部数学科卒業

1974年 東京大学大学院理学系研究科数学専攻博  
士課程中退

1974年 統計数理研究所研究員  
助手、助教授を経て

1991年 統計数理研究所教授

2002年 統計数理研究所長

2004年 情報・システム研究機構理事

研究分野：時系列解析、統計的モデリング、発見  
科学。

学術雑誌：JASA, JCGS, AISM, Biometrika,  
JBES, JSPI, IEEE-AC, Automatica などに  
論文がある。

## 2. 会長退任のご挨拶

山本 拓（前日本統計学会会長）

2年前はからずも日本統計学会の会長に選出さ  
れ、平成17年、18年の2年にわたる会長をなんと  
か務めることができました。これもひとえに有能  
な竹村彰通、田中勝人両理事長のおかげであると  
感謝しています。また理事各位の努力および評議  
員・会員の皆様のご協力に感謝いたします。

この2年間は、統計学会にとって通常の活動・  
事業と異なるいくつかの大きな事柄がありました。  
その第1は、日本統計学会75周年記念事業  
（期間：平成18年2月～19年6月）です。この事  
業は我々執行部のみではとても扱いきれないと思  
いましたので、竹村理事長と相談の結果、元会長  
の杉山高一先生に同事業の委員長を引き受けてい  
ただき、先生のリーダーシップの下に、記念事業  
を推進してきました（主たる事業は終わりました  
が、まだ完全に終わったわけではありません）。  
2回にわたる研究集会、連合大会（東北大学）に

おける記念セッション、国際シンポジウム等々、  
当初計画された事業は盛況の内に終わりました。  
現在は残された75周年記念出版賞の選定、和文特  
集号の発刊、および記念出版（東大出版会）の刊  
行等が順調に進められております。募金に関して  
は会員各位から300万円を超える寄付を頂き、大  
変感謝しております。募金総額は現時点で900万  
円を超えております。この長期不況の時節にまこ  
とに大きな成果であると思います。このような順  
調な事業の推進は、ワーキング・グループのメン  
バーとして中央大学でのミーティングに集まって  
くださった藤越康祝前会長、竹村理事長、伊藤彰  
彦氏、和合肇氏、国友直人氏、渡部美智子氏、鎌  
倉稔成氏、北川源四郎氏、高橋一氏、大橋靖雄氏  
等のご尽力の賜物であると感謝しています。そし  
てなによりも全体を統括しリードしてくださった  
事業委員長の杉山先生のおかげであると感謝して

います。

第2は、統計関連学会連合（以下、連合と略す）に関わる進展です。私が会長に就任してまもなく連合は正式に発足しました。これはかなり以前から構想されていたアイデアが、杉山元会長、藤越前会長のもとで具体化への道が探られ、ついに成立に至ったということです。私は藤越前会長の後任として、竹村理事長と共に連合理事会に加わりました。連合理事会は広津千尋委員長の下にたびたび会合を持ってきました。当初は各学会の思惑がぶつかりましたが、最近はかなりスムーズになっています。今年の秋の連合大会（神戸大学）は、これまでの応用統計学会、日本計量生物学会、日本統計学会の3学会に、新たに日本計算機統計学会と日本行動計量学会が加わり、5学会の主催という極めて大規模な大会となります。現在の所は、連合にとっての主たる大きな事業は連合大会の開催のみといえますが、連合としての活動は今後ますます活発化し、その重要性も高まっていくと考えられます。

第3は、この3月に試みられた春の研究集会（大会）があります。連合大会においてはその構造上、参加各学会の独自性は主張しにくいものとなっています。大規模な連合大会規模の経済性があり、それ自体の意義は明白です。ただ当学会の独自性を維持するためには、独自の研究集会（大会）を持つべきではないか、という趣旨により今回の試みになりました。ちなみに連合に属する他の学会は、みな何らかの形で独自の大会、シンポジウムあるいは研究集会の機会を設けています。私見では、この3月の研究集会は、短い準備期間にもかかわらず田中理事長はじめとする関係各位のご尽力でかなりの盛会であったと思います。今後、このような当学会独自の春期の研究集会（大会）を持つべきか、また持つとすればどのような

形式が望ましいかは、会員の皆様のご意見のもとに今後慎重に検討していくべきものと考えています。学会の活動の両輪は、発行する学会誌と研究集会（大会）だと思しますので、この春の集会の取り扱いは今後の当学会の重要な検討課題であると考えます。

第4は、当学会の事務処理の方法に関してですが、平成18年4月より青山にある（財）統計情報研究開発センター（Sinfonica）に全面的な事務委託を行い、本年4月より事務局自体を永年住み慣れた統計数理研究所から名実ともに同センターに移すことになりました。この間の移行ならびにその準備に伴い、担当の前田忠彦前庶務理事には多大なお世話を頂きました。幸いにして現在のところ移行はスムーズに行われていると思います。従来、理事会のなかで最も忙しい庶務業務は統計数理研究所の若いメンバーに依存してきましたが、この移行に伴いそのような偏った依存は改善される方向にあると考えます。

上記の他、この2年間に前評議員会からの懸案であった研究業績賞の創設、夏期大学院構想の総合研究大学院大学におけるスタート、欧文雑誌における赤池先生記念特集号の発刊等が新たに決りましたが、紙幅の関係でこれらについて詳しく述べることは控えます。これらの事業は、次期以降の執行部によって練られて、着実に実現されていくものと考えています。

次期執行部の北川源四郎会長、田中勝人理事長は極めて有能で行動力に溢れており、当学会の発展に大いに貢献されることと期待しています。評議員ならびに会員の皆様には、私どもの執行部に寄せられたと同様のご支援・ご協力を次期執行部に賜ることをお願いし、私の退任の挨拶とさせていただきます。

### 3. 2007年度統計関連学会連合大会(神戸大会)の事務局・実行委員会 からのお知らせ

#### 3.1 事務局からのお知らせ

連合大会事務局長

今野 良彦(日本女子大学)

参加費についてはWebによる事前申込みを推奨  
しています。当日受付の混雑を緩和するためです。  
とくに、学生には大幅な割引がありますのでご利  
用ください。事前申込みの方にも領収書を発行し  
ます。なお、後援団体の参加者は当日受付(参加  
費は会員扱い)のみとなります。

##### (i) 大会参加費(報告集, CD-ROM代を含む)

###### (a) 事前申込み

会員(主催・協賛の6学会の会員): 4,500円

学生(会員・非会員を問わず): 1,500円

学生以外の非会員: 10,000円

###### (b) 当日受付

会員(主催・協賛の6学会の会員): 6,000円

学生(会員・非会員を問わず): 6,000円

学生以外の非会員: 12,000円

##### (ii) チュートリアル・セッション参加費(資料 代を含む)

###### (a) 事前申込み

会員(主催・協賛の6学会の会員): 2,500円

学生(会員・非会員を問わず): 1,000円

学生以外の非会員: 4,500円

###### (b) 当日受付

会員(主催・協賛の6学会の会員): 3,000円

学生(会員・非会員を問わず): 3,000円

学生以外の非会員: 6,000円

##### (iii) 市民講演会

無料

##### (iv) 懇親会

###### (a) 事前申込み

一般: 6,000円, 学生: 3,000円

###### (b) 当日受付

一般: 7,000円, 学生: 4,000円

#### 3.2 実行委員会からのお知らせ

連合大会実行委員会委員長

大谷 一博(神戸大学)

##### (i) 宿泊案内

神戸大学生協がホテルの紹介・斡旋を行いま  
す。詳細は連合大会Webに掲載します。

##### (ii) 講演者の方へ: 利用可能設備について

会場では講演用のプロジェクタおよびOHPが利  
用可能です。プロジェクタをご利用の場合は昨年  
と同様、講演者の方には各自PCをご持参いた  
だくことを原則とさせていただきます。予備として  
Windows PC (Adobe Reader 8, PowerPoint Viewer  
2003 インストール済)を会場に用意しますが、  
適正表示をすべて保障するものではありません。

##### (iii) 保育室

会場内の一室を保育施設にします。多くのご利  
用を期待しています。利用規定や申込み方法など  
の詳細は連合大会Webに掲載します。なお、今年  
度も保育室設置に際し(財)日本統計協会による  
助成金を申請する予定です。

##### (iv) 懇親会

2007年9月8日(土) 19:30~21:30

神戸の旧居留地に位置する「第一樓」

(神戸市中央区江戸町94番地,

<http://www.daiichirou.co.jp/shoukai/index.htm>)

にて懇親会を行いますので是非ご参加ください。  
今回は数ある神戸の中華料理店の中でも最大級の  
規模のお店です。



## 4. 2007年度統計関連学会連合大会(神戸大会)のプログラム企画について (第二報)

連合大会企画委員会委員長  
狩野 裕 (大阪大学)

2007年度が始まりました。多くの大学・機関では新入生や新入社員を迎えて活気ある新年度をスタートなされたことと思います。さて、プログラム企画(第一報)でご案内させて頂きましたように、2007年度の統計関連学会連合大会は2007年9月6日(木)から9月9日(日)までの日程で「異国情緒豊かな港町」神戸大学(経済・経営学部本館)にて開催されます。主催は応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会の5学会、日本分類学会は協賛としての参加です。他にいくつか後援団体があります。なお、連合大会のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

に関連情報や詳細情報が随時掲載されますので合わせてご一読ください。

### 4.1 研究報告の申込み

研究報告は、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」から成ります。申込み方法はすべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項があります。各講演とも、その詳細については連合大会のWebページを参照してください。

#### (i) すべての講演に共通する事項

研究報告をご希望の方は、上記Webからお申込み下さい。他の申し込み方法はありません。申込期間は2007年4月24日(火)から5月31日(木)までです。Webでは、一般講演、企画セッション講演、コンペティション講演のいずれかを選択してください。

#### (ii) 「一般講演」に関わる事項

通常の研究報告は「一般講演」として各講演者がお申し込み下さい。その際プログラム編成の参

考にしますので、最大3個までのキーワードを、順序をつけて選択願います。

#### (iii) 「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザに一任しています。オーガナイザが一括してお申し込み頂いても、各講演者が申込して頂いても結構です。申込期限を厳守してください。

#### (iv) 「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で5回目を迎えます。参加資格は2007年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者です。所属(大学院生、教員、社会人)は問いません。連名講演の場合は、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点で、コンペティション対象者は、主催5学会のいずれかの会員でなければなりません(ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます)。昨年度は事前審査を取り入れましたが、今年度は申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。

### 4.2 研究報告集用原稿の提出

報告集用原稿は1ページです。提出方法としてWebから電子ファイル(PDF形式)を提出する方法と紙原稿を郵送する方法を選択できます。いずれの提出方法でも、締切りは2007年7月4日(水)です。厳守をお願い致します。なお、紙原稿は企画委員長宛て郵送してください。

〒560-8531 豊中市待兼山町1-3

大阪大学大学院基礎工学研究科数理科学領域  
連合大会企画委員長 狩野 裕 宛

希望者は、報告集用原稿とは別に詳細論文（CD-ROMに収録）を提出することができます。詳細論文は最大10ページとし、PDF形式（ファイルサイズは1MB以下）でメールにより企画委員長宛て（jfssa2007cdrom@yahoo.co.jp）にお送りください。

報告集用原稿および詳細論文の執筆要綱については大会Webをご覧ください。

「企画セッション講演」の報告集用原稿の提出方法はオーガナイザに一任しています。各講演者が提出するかあるいはオーガナイザが一括して提出するか、オーガナイザの指示に従ってください。

#### 4.3 企画セッションのご案内

神戸大会においては13の企画セッションが設けられています。テーマとオーガナイザは以下の通りです。テーマのねらい等についてはWebをご覧ください。企画セッションの運営はオーガナイザに一任していますので、企画セッションで講演される方は直接オーガナイザ（[ ]内）にお問い合わせ下さい。

- 統計教育におけるカリキュラムと教材、評価システムの国際比較～国際標準化に向けて～  
[二宮 智子（玉川大学）・竹内 光悦（実践女子大学）]

- 政府統計改革の現状と課題

[西郷 浩（早稲田大学）・勝浦 正樹（名城大学）]

- 水産生物資源の解析と統計モデリング

[北門 利英（東京海洋大学）・南 美穂子（統計数理研究所）]

- 統計科学とマーケティング

[照井 伸彦（東北大学）・阿部 誠（東京大学）]

- アレイデータ解析周辺にみる新しい統計的視点：総括と今後に向けて

[井元 清哉（東京大学）・樋口 知之（統計数理研究所）]

- 高頻度データを用いた計量ファイナンス分析

[川崎 能典（統計数理研究所）・谷崎 久志（神戸大学）・西山 慶彦（京都大学）]

- 「回転」研究の新「展開」

[足立 浩平（大阪大学）]

- サイコメトリックスにおける多変量データ解析研究のゆくえ

[足立 浩平（大阪大学）]

- データの可視化と計算機・Web技術

[森 裕一（岡山理科大学）・飯塚 誠也（岡山大学）]

- リモートセンシング技術の展開と統計数理 - 応用統計学会・日本リモートセンシング学会共同企画 -

[田栗 正章（応用統計学会会長）]

- 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演

[上坂 浩之（日本計量生物学会企画担当理事）]

- 日本統計学会会長講演

[田中 勝人（日本統計学会理事長）]

- 応用統計学会学会賞受賞者講演

[西井 龍映（九州大学）・岸野 洋久（東京大学）]

#### 4.4 チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルセッションでは3つのテーマを用意しました。「テーマ1」または「テーマ2とテーマ3」のどちらかをお選びいただけます。なお、テーマ名や講演時間について多少の変更があり得ますことをご確認ください。

日 時：2007年9月6日（木）

午後（12：30より受付開始）

テーマ1：

ベイズ統計とベイジアンネットワーク

講演時間：13：00 - 18：10

オーガナイザ：繁樹 算男（東京大学）

講演タイトルと講師：

- ・第1部：ベイズ統計の基本とベイジアンネットワークの導入 [繁樹 算男（東京大学）]

- ・第2部：ベイジアンネットワークのモデル構築 [植野 真臣（電気通信大学）]

- ・第3部：ベイジアンネットワークによる問題解決 [本村 陽一（産業技術総合研究所）]

テーマ2：大規模データ解析の現状と問題点

講演時間：13：00 - 15：30

オーガナイザ：樋口 知之（統計数理研究所）

講師：樋口 知之（統計数理研究所）

テーマ3：

生存時間解析における競合危険モデル入門

講演時間：16：00 - 18：30

オーガナイザ：上坂 浩之（日本イーライリリー）

講師：西川 正子（国立保健医療科学院）

（\*）テーマ2と3につきましてはどちらか片方のみを受講することもできます。

4.5 市民講演会のご案内

市民講演会は下記のテーマについて、お二人の方に講演して頂きます。参加費は無料です。

日時：2007年9月6日（木）17：00 - 19：00

場所：神戸大学（経済・経営学部本館102号室）

テーマ：「統計データから見たEUと日本経済・関西経済について（仮題）」

講演者：

・久保 広正（神戸大学大学院経済学研究科・教授）

・飯塚 信夫（日本経済研究センター・研究統括部担当部長兼主任研究員）

（敬称略）

## 5．2007年度統計関連学会連合大会（神戸大会）・コンペティション講演のご案内

コンペティション担当企画委員・責任者  
富澤 貞男（東京理科大学）

過去4年に引き続き、5回目のコンペティション講演を企画しました。参加資格は、2007年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（大学院生、教員を問わない）です。連名講演の場合は、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点で、発表者は、主催5学会のいずれかの会員でなければなりません（ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます）。

昨年との大きな違いは次の点です。昨年は事前審査を行いましたが、今年はいりません。したがって、コンペティション講演を申し込まれた方皆さんに大会当日に講演していただきます。

審査方法については、該当するセッションの参加者の自主記名投票に基づき、企画委員会で選考することにします。なお、自主記名投票での評価は3段階評価で行う予定です。ただし、講演者ならびに共著者は自身への投票は出来ません。

審査では、研究内容はもちろんですが、研究発表のプレゼンテーションに対しての評価を重視し

ます。発表者各自が、十分に準備、工夫をされて、聴衆の多くの方が、これは実に素晴らしいプレゼンテーションであると感じるような講演を期待しております。

最優秀報告者1名、優秀報告者（原則として）2名を選考し、大会の閉会式（表彰式）にて受賞者を発表して表彰します。大学院生を含む若手研究者の皆さんに、是非ともコンペティション講演に申し込んでいただき、最優秀報告賞や優秀報告賞の受賞を目指して頑張ってくださいと思います。

このような大変権威ある大きな学会でコンペティション講演することは（受賞する、しないにかかわらず）、若手の皆さんにとって大変に有益であり、今後の研究活動への大きな励みになると思います。若手によるコンペティション講演は、毎年、大変多くの方が関心を持って注目しております。多くの方に自分（自分の研究と自分自身）を知ってもらい、又とない絶好のチャンスです。

コンペティション講演については毎年その方法



が変化しています。どの方法にも長所と短所がありbest solutionはないように思います。しばらくいくつかの方法を試してみるという状況が続くものと思われます。参加者にはご迷惑をお掛けしま

すが、生みの苦しみとご理解ください。

若手の皆さん、是非コンペティション講演への申し込みを考えてみてください。

## 6. 丘本正先生の御逝去を悼む

猪原正守（大阪電気通信大学）

永田 靖（早稲田大学）

狩野 裕（大阪大学）

日本統計学会名誉会員の丘本正先生が平成18年12月14日の夕刻に亡くなりました。享年83歳でした。告別式は18日宝塚平安祭典会館にてしめやかに執り行われ、丘本先生を偲んでご親族と卒業生を中心に多数の方々が参列されました。

丘本先生は大正12年大阪市にお生まれになりました。東京大学理学部数学科をご卒業後、大阪大学の大学院を修了されました。昭和29年に大阪大学理学部助手として採用され昭和38年に基礎工学部教授に就任し推計学講座を24年間担当されました。大阪大学を停年後は追手門学院大学経済学部教授として同大学の発展に力を注がれました。この間、先生は教育・研究に情熱を傾けられ、専門とする数理統計学、特に多変量解析の分野において国内外に大きな影響を及ぼされました。

丘本先生は、「大学教員の職責は研究・教育・普及であるが私は教育により重点を置きたい」というのが信条でした。私たちが先生の期待に応えているかどうかはともかく、30名を超える卒業生が大学で教鞭をとっています。先生の大学院生の研究に対する指導の厳しさは、退官近くには和らいだとはいえず、筆舌に尽くしがたいものがありました。私たちがその厳しさの裏側に潜むやさしさに気付くのは後年になってからでした。

丘本先生は、研究テーマに関して院生の自主性を重んじられました。そのため、卒業生の研究分野のスペクトルの広がりも特筆すべきことではないかと思えます。実際、卒業生の専門は、多変量解析、時系列解析、ノンパラメトリック法、統計

的推測理論、データ解析、各種のモデル論、確率解析、品質管理、生物統計学など、極めて多様です。あるとき、丘本研究室の研究テーマについて、「ベクトルに喩えるといろいろな方向を向いている」と言われた丘本先生は「ベクトルの和はゼロです。ベクトルの和がゼロでも、ベクトルの長さの和はとても大きいと思っている」とにこやかにお答えになりました。私たちが研究室を巣立った後もいつも研究の進捗状況を気にしてくださいました。統計学会の年会などで丘本研究室出身者の講演数を数えて、その数が少ないときには檄を飛ばされることもありました。

丘本研究室の研究指導は主に月曜日にスケジュールされた3つの研究セミナーと修士課程の1年生と2年生のゼミでした。月曜セミナーは一番オフィシャルのもので、近隣の統計学者もたくさん出席し、時には学外や外国人の著名研究者の講演を聴くことができました。M2以上の学生は少なくとも年に一度の発表が義務付けられていましたが、順番が回ってきたときは緊張の一瞬でありました。他の二つはMAGと称された多変量解析のセミナーとSSSと呼ばれたノンパラメトリックスと統計推測理論のセミナーでした。これら三つのセミナーを終えると月曜日は疲れ果てていましたが、講演者や院生、若手の先生方と議論の続きをしたり、時には大挙して石橋へ飲みに出かけたりすることもありました。

丘本先生は、OBや院生との研究を離れた交流も大切にされ、年2回のボウリング大会（俗称：

丘本杯)を開催されました。また、年2回のハイキングや院生のソフトボール大会に若手の先生方と院生が一緒になって参加することなどにも積極的で、これらの後の会食でも楽しいひとときを過ごされました。会食後は8時半ごろに帰宅されることが多かったと記憶していますが、それは、院生や若手研究者間のコミュニケーションが進むようご配慮なさっていたのではないかと思います。このように、丘本研究室での生活は厳しくもあり楽しくもありました。研究室の卒業生が、現在、仲良く付き合っているのは、丘本先生の指導力と包容力のお蔭であることは間違いありません。

丘本先生のご研究を紹介します。先生の研究では、まず、漸近展開による誤判別率の評価を挙げることができます。本研究は、線形判別関数による誤判別確率を漸近展開の手法を導入することにより高い精度で評価することを可能にしました。その後、この研究は漸近展開の基本文献として広く引用され、多変量解析の諸統計量の分布を評価する有力な手法の一つに位置づけられており、多くの日本人統計学者がその手法の発展に関わり多変量解析の研究で世界的に貢献する契機を与えました。先生はアイオワ州立大学に客員教授として招聘され、共変量のある場合の誤判別確率と尤度に基づく判別の誤判別評価の研究により博士論文の指導を行い、先生が開発した漸近展開の手法の有用性を世界的に知らしめました。

先生は、主成分分析や因子分析の研究でも独創的な業績を残しておられます。先生は主成分分析をデータ行列の特異値分解として捉え、個体と変量に関して中心化を行うか行わないかによって特異値分解がどのように影響を受けるかを詳しく研究し、この結果は実験計画法の分野にも大きく貢献しました。因子分析に関する研究は、因子分析モデルの母数推定アルゴリズムの開発、初期推定値に関する提言、不適解の研究にまとめられます。因子分析法は医学、心理学等で盛んに応用されているにもかかわらず、解を求めるための有効なア

ルゴリズムがありませんでした。従来の母数推定アルゴリズムは反復解法の非収束や不適解という不安定性があり、理論的に不備な面が多く有用性に疑問がもたれている手法でありました。先生が開発した部分ガウスニュートン法はこれらの欠点を克服するアルゴリズムであることが高く評価されました。さらに、因子分析法の推定について最尤法と最小二乗法を統一的に論じ、また、繰り返し計算における初期値の選択法の提案と数値実験によるその検証を行い、因子分析法の有用性を示すのに大きく貢献されました。

因子分析の研究では、丘本先生は東京のある学派と意見を異にしていました。そのようなことは珍しくはありませんが、先生は、個人的に議論はせず学会大会の場で公明正大に議論するという立場を最後まで崩すことはありませんでした。形式的な議論が多い中、丘本先生のセッションにはその激論を見るため多くの大会参加者が集まったことは、つい最近のように思い出されます。

先生は、多変量解析における標本分散共分散行列の固有値に関する基本命題をエレガントに証明され、それは基本文献として長く引用されています。また、対応分析(数量化法)や母数間の関係を推測する関数関係模型、構造関係模型における推定量や予測量の構成にも力を注ぎ従来の方法を上回る効率の良い手法を開発しておられます。

以上のような統計学に関する貢献に対して平成10年に日本統計学会賞が贈られました。また、日本科学技術連盟において品質管理や多変量解析の普及にあたり産業現場での統計学の問題の研究開発にも貢献されました。平成12年には国家や公共に対する功労が顕著であると認められ勲三等を授与されました。

丘本先生は私たちの前ではいつも快活でした。後年奥様に「主人は体が弱くて…」と伺い意外な感じを受けました。多くの後進を育てた師匠としてご無理を重ねられていたのかもかもしれません。先生のご冥福を心よりお祈りします

## 7. 「日本統計学会春季集会2007」の報告

田中 勝人（日本統計学会理事長）

前回の会報でお知らせしましたように、標記の集会在2007年3月10日（土）に東京理科大学の神楽坂キャンパスで開催され、関係者のご協力により、無事に終了することができました。厚くお礼申し上げます。準備期間や周知の期間が短かったにもかかわらず、当日の参加者は115名を数え、久しぶりに統計学会独自の交流をもつことができました。集会後の懇親会にも50名近くの会員が参

加して、楽しいひとときを過ごしました。

集会に関するアンケートを実施したところ、今回の集會に満足した人が圧倒的に多く、来年の開催も希望していることがわかりました（別紙参照）。理事会としましても、来年の開催に向けて、いろいろと企画したいと思っていますので、ご要望等ありましたら、shom@jss.gr.jp宛にお寄せください。

## 8. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について

田中 勝人（日本統計学会理事長）

「第11回日本統計学会賞」、「第2回日本統計学会統計活動賞」、「第2回日本統計学会統計教育賞」、「第1回日本統計学会研究業績賞」の受賞候補者推薦を下記により募集いたします。推薦書の書式については、学会事務担当にお問い合わせください。

各賞の推薦締め切りは2007年6月8日（金）です。推薦書の宛先は下記の通りです。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書してください。

### [宛先・照会先]

(財)統計情報研究開発センター 日本統計学会係  
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F  
Tel & Fax: 03-5467-0483  
E-mail: shom@jss.gr.jp

### [対象範囲]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。なお、統計活動賞および統計教育賞については個人のみならず、グループや団体も受賞対象になる。

### [推薦方法]

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式にしたがって推薦する。

### [発表]

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、各賞の概要と規程を以下にご紹介します。

### 日本統計学会賞

#### [名称]

日本統計学会賞

#### [趣旨]

統計学の研究及び普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

#### [対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

●理論統計学の理論の発展に多大な貢献のあった者。

●実証・応用・計算；この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。  
その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[ 選考方法 ]

推薦者は対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、選考委員会が実施する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

●日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。

●選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[ 賞の内容 ]

賞状および記念品などの副賞を授与する。副賞は、原則として「統計学の学会活動60周年記念基金」の果実の範囲とする。

#### 統計活動賞

[ 名称 ]

日本統計学会統計活動賞

[ 趣旨 ]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[ 対象範囲 ]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

授賞対象は、毎年2件以内とする。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。

(3) 新たな研究領域・分野の開拓。

(4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[ 選考方法 ]

授賞対象となる活動は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

●日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名

●選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[ 賞の内容 ]

授賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

#### 統計教育賞

[ 名称 ]

日本統計学会統計教育賞

[ 趣旨 ]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[ 対象範囲 ]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、日本統計学会の会員・非会員の別、国籍を問わない。授賞対象は、毎年2件以内とする。

(1) 統計教育に関する著書、論文

(2) 統計教育の実践

- (3) 統計教育に用いるソフトウェア，テキスト，教材等の開発
- (4) 統計の普及，啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[ 選考方法 ]

授賞対象者は，日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する．選考委員会の構成は以下の通りとする．

- 日本統計学会会長，前会長，理事長，統計教育委員会委員長，及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- 選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める．

[ 賞の内容 ]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する．

#### 研究業績賞

[ 名称 ]

日本統計学会研究業績賞

[ 趣旨 ]

統計学及び関連分野において優れた研究業績を挙げた個人を顕彰し，わが国の統計学研究の発展に貢献することを目的とする．

[ 対象範囲 ]

授賞対象は，次に掲げるいずれかの要件を満たす研究活動の成果であり，全体として毎年2名程度に授与する．

- (1) 各年の日本統計学会誌掲載論文であって，若手の統計学研究者の奨励を趣旨とした「日本統計学会小川研究奨励賞」の対象とはならない論文．
- (2) 過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で出版した複数あるいは単独の論文．
- (3) 過去3年程度に出版した統計学に関する図書，ならびに統計学関連の研究成果を著した図書．

[ 選考方法 ]

授賞対象者は，日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する．選考委員会の構成は以下の通りとする．

- 日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名．
- 選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める．

[ 賞の内容 ]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する．

## 9．JST戦略的創造研究推進事業への応募のお誘い

渉外理事

田村 義保（統計数理研究所）

すでにメーリングリストでお知らせしたJST（科学技術振興機構）の戦略的創造研究推進事業の平成19年度の新規戦略目標である「社会的ニーズの高い課題の解決へ向けた数学／数理科学研究によるブレークスルーの探索（幅広い科学技術の研究分野の協働を軸として）」に係る事業として，さきがけタイプで，

戦略目標「社会的ニーズの高い課題の解決へ向けた数学／数理科学研究によるブレークスルーの探索（幅広い科学技術の研究分

野との協働を軸として）」の下の研究領域「数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索」研究総括：西浦 廉政（北海道大学電子科学研究所 教授）

の公募が3月28日から始まっています．締め切りは5月15日なので，会報で始めて気づいた方も間に合います．URLは次のとおりです．

<http://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/jigyou/guidelines/04-p12.html>



## 10．シリーズ：統計学の現状と今後

### 10.1 「統計的コンサルティング」

大森 裕浩（東京大学）

真木 和彦（ウィスコンシン大学マジソン校）

筆者の大森が米国のウィスコンシン大学マジソン校の統計学部に留学したのは既に20年前のことであるが、統計学部の博士課程では必修科目として数理統計（測度論的確率論、仮説検定・推測論など）と並んで「統計的コンサルティング」という科目が指定されていた。博士課程とは別に設定されていた修士課程においてもまた必修科目として指定されており、重要な科目という位置づけであった。今日でも、この科目の位置づけは変わらない。一方、日本では未だ「統計的コンサルティング」を必修科目とする大学院は私の知る限りではなく、またそもそも科目自体が無いのが普通ではないだろうか。ここでは筆者の経験した「統計的コンサルティング」に関する演習の紹介をすることにより、今後の統計教育のあり方について参考になれば幸いと考えている。

個人的には、「統計的コンサルティング」とはそれまで聞いたこともない科目名であったし違和感も覚えたのだが、どちらかという好奇心の方が勝ってすぐに履修することとなった。演習のシラバスには目的は「統計的コンサルティングに必要な技術を身につけること、特にデータ分析・問題解決・レポートの書き方・クライアントとの意思疎通・実験の計画・データの収集及びコンサルティングにおける実務的な側面について取り上げること」と書かれていた。それでも目的はやや漠然としていたし、当時はすでにSASなどの統計パッケージも計算機で利用できたので、演習では現実のデータをパッケージで分析すればそれでよいだろうと高を括っていた。

ところが予想に反して第1回目の授業で大変驚かされることになった。講師の同僚である、統計学部の某教授が実際に（模擬的にではなく）学内の研究者を相手にコンサルティングをしている様

子を収録したビデオが流され、コンサルティングの悪い例として紹介されたのである。某教授が最初に“ What's the response? ”と話始めたのを皮切りに統計学の専門用語を繰り返し始めると、クライアントである生物系分野のある教授は統計学のことをよく知らない為か、逆に自らの専門知識を対抗するように披露し始めてしまい、結局お互いに意思疎通ができないまま時間が無駄に流れていくという不毛なコンサルティングの一部始終であった。

今思えば、コンサルティングでは相手の要望や立場をよく理解しながら問題解決に向けて協力するという当たり前のことを行うことが、実際にはなかなか難しいことなのだとすることを教えるための教育材料であったのだが、悪い例として紹介された某教授は現在も同学部の教授であり教育材料とはいえそのビデオ使用を認める寛容さには驚くとともに敬意を表する。実はこの他にも教育目的のためにいくつかのコンサルティング事例がビデオに収録されており、希望者は図書館でいつでも視聴できた。演習では実際に学内でコンサルティングを続けている教授が何人が訪れては、その経験を話していった。

演習ではまず、実際に過去に分析されたデータを分析する課題が複数回出され、その分析結果を提出した後にはその比較検討を参加者で行ったが、意外な切り口から分析をする者もあり大変興味深かった。次に実際にデータの分析について相談したいという学内の講師がクライアントとして演習に訪れ、体育教育におけるトレーニングが運動能力の改善や体重・体脂肪の減少などにどのような効果をもたらすのかを、個人属性と測定データに基づいて検証するというコンサルティングを演習の参加者全員で行った。余り適切とはいえぬ形で集められたデータは欠損値も比較的多く頭を悩ませることとなったが、与えられた条件の下でどのような解決を見出すべきかのよい練習であっ

た。またクライアントの期待・要望を理解するのも意外に時間がかかり、演習参加者の中からは自分では気づかなかった点に関する質問もしばしばあり、大変参考になったと記憶している。

次の段階は面白いことに「自らクライアントを見つけコンサルティングせよ」というものであったので、筆者は社会学の博士課程に在籍していた友人をクライアントとしてコンサルティングを行った。残念ながらその詳細は既に忘れてしまったが、クライアントと「解決すべき問題は何か、何を期待するのか」を共有するまでやはり時間がかかったことを覚えている。何よりクライアントとコンサルタントという関係が科学的良心の伴う共同研究に近い関係になることが問題解決には重要であるのだが (Johnson and Warner (2004)), 統計学の専門ではないクライアントには彼なりの分析の流儀のようなものがあり、お互いを認めて考え方を理解することが課題であった。演習では参加者が各々のコンサルティング内容を発表したのだが、やはり同様な経験をしたようである。

コースの後半では、統計コンサルタントとしての倫理観について扱った。統計コンサルタントはその特質上、恣意的な分析やデータの改ざんなど、クライアントから分析者としての信義にもとるような圧力を受けやすい。こうした問題意識を深めるために、長く企業で統計を担当した人物を講演に招いたり、クライアントとコンサルタントの立場が詳細に描かれたケーススタディを行ったりした。最後は統計的コンサルティングのPhilosophyについて幾つかの論文を読み、演習の総括が行われた。

後に気づいたことであるが、当時から大学では学内の研究者を対象としたデータ分析に関するコンサルティングを行っており、現在ではこの科目を履修した博士課程の学生が他の学科や企業で統計のコンサルタントとして働き、授業料の免除や生活費を受けているケースも多いようだ。また修士課程で卒業する大学院生の多くは企業などで働くことになるが、コンサルティング会社に就職するものはもちろん、一般企業においても非専門

家の依頼を受けて行うコンサルティングのノウハウは有用である。実際、修士課程の卒業試験は統計コンサルティングの結果を統計学科の教官が審査して合否を判定するという仕組みになっているほどだ。

たしかに、米国では企業が大学教育に実践的な技術を強く求めるという点で日本と異なる点もある。しかし、近年、日本の企業組織などにおいても人材流動化に伴ってナレッジ・マネジメントの重要性が増していることを考えると、統計的コンサルティングのように知識を広く社会に還元していくしくみは、日本でも今後注目に値するようになると思う。

統計的コンサルティングに関連する書籍は多くはないが、例えばBoen and Zahn (1982), Derr (2000), Cabrera and McDougall (2002)などが参考になるであろう。また、倫理についての読み物としては、Sigma Xi, The Scientific Research Society (2000)が挙げられる。現在も米国では多くの大学において統計的コンサルティングセンターが設置されており、学内のみならず学外も対象としたコンサルティングが行われている。今後は我が国の大学においても徐々に同様な交流・活動が進み、大学院においても「統計的コンサルティング」教育を行うことになることであろう。

#### 参考文献

- Boen, J. and D. Zahn (1982), *The Human Side of Statistical Consulting*. Lifetime Learning Publications, Belmont, CA.
- Cabrera, J. and A. McDougall (2002), *Statistical Consulting*. Springer-Verlag, New York.
- Derr, J. (2000), *Statistical Consulting: A guide to Effective Communication*. Duxbury press, Pacific Grove, CA.
- Johnson, H.D. and D.A. Warner (2004), "Factors relating to the degree to which statistical consulting clients deem their consulting experiences to be a success," *The American Statistician*, 58, 280-289.
- Sigma Xi, The Scientific Research Society (2000),

"Honor in Science," Research Triangle Park, North Carolina.

## 10.2 「香港における統計教育」

奥井 亮（香港科技大学）

一昨年より、香港科技大学の経済学系で、主に計量経済学の講義を担当しています。ここでは、香港での統計教育の現状について、簡単に紹介させていただきます。特に、香港の3大学（香港大学、中文大学、私の所属する科技大学）における、統計教育について、書いてみます。

まず、それぞれの大学の統計学者の組織について簡単に説明しましょう。科技大学には、統計学系はなく、統計学者は、理学院のなかにある数学系と、ビジネススクールのなかにある、資訊与システム管理学系（Department of Information and Systems Management）に所属してしまっていて、また経済学系にも計量経済学者がいます。ただ、統計学者で集まり統計のセミナーを共同で開催するなど、それなりの頻度で交流が持てるようにはなっています。その一方で、香港大学には統計及精算学系（Department of Statistics and Actuarial Science）があり、また香港中文大学には、統計学系があります。これらの学部は、理学院の下にあります。

学部教育ですが、科技大学では、工商管理学院に所属する学生は一年次に統計学の授業をとる必要があり、経済学を専攻する学生の場合、計量経済学が必修となっています。これは、香港大学や中文大学の場合も大体同じです。ただ、経済やビジネスの関連では、科技大学のほうが、ほかにも統計関連の授業が充実しているといえるでしょう。一方、科技大学では、数学専攻で確率統計の授業を多く取ることは出来ますが、香港大学や中文大学では、理学院で統計専攻が用意されていませんので、より統計に焦点を絞った教育が受けられるといえるでしょう。これらの統計専攻もファイナンスなどビジネスに関連した統計科目を多く開講しています。

また、各大学とも統計に関する修士課程を用意しています。香港の修士課程で特徴的なのは、金

融や保険などにかんする統計の学位が充実していることだと思います。科技大学の数学系は、ファイナンスの修士課程を提供していますし、ファイナンス学系の提供するファイナンス修士では数理統計ファイナンスの授業を多く取ることも出来ます。また、香港大学では、統計学の修士課程において、リスク管理に関する講義が重視されていますし、中文大学では、統計学の修士課程とは別に、リスク管理に関する修士課程も提供しています。これらの修士課程は、基本的に、終了後は民間の金融機関などへの就職を目指す、専門課程です。授業料は100万円を越え、けっして安くはないのですが、興味を持つ学生は多いようです。

このように香港の統計教育は、ファイナンスや保険数理が、中心でして、また、多くの学生がそのような授業を希望します。その一方で、例えば、biostatisticsの関連の教育に関しては、（研究者は多いものの）それほど充実していないことも特徴かもしれません。

私見になりますが、香港の学生の統計に対する意識を書きたいと思います。香港の学生は、将来の職業への意識が非常に高く、積極的に、就職に有利になる知識や技術を得ることを重視します。その一方で、学術的な興味というものは弱く感じられます。統計学に対する態度もこのような文化を反映しているようです。統計関連の授業や学位に興味を持つ学生は少なくないのですが、それは、統計の知識は金融機関などで役に立ちますので、その意味において、興味をもってくれているといえます。そのため、特に統計学の数学的な面については、興味のある学生は少なく、必要であるともあまり思われていないようです。したがって、授業の内容も、特にビジネススクールにおいては、数学的な部分はあまり追わずに、実際に統計分析を行うための技術を重視した教育が求められます。このような教育方針は実際のであり、良い面もあるのですが、背後の論理を無視した、いわゆるマニュアル的な教育になってしまいがちでもあります。

次に、自分の感じた、香港の統計教育における

課題について書いてみます。まず第一に、学生の統計学への興味はファイナンスなどへの応用が中心ですが、ファイナンス統計を研究している学者というのはそこまで多くありません。香港には多くの優れた統計学者がおり、研究水準も非常に高いといえます。一方で、ファイナンス統計学者というのは、半分にもいかない程度です。もっとも、学部や修士課程程度の内容であれば、専門でなくとも授業をするのは難しくありませんが、やはり、基本的な興味の持ち方に学生とのギャップが出来てしまうことは否めません。この点について、ファイナンス以外でも統計が重要であることを学生に伝えていくべきなのか、それとも、需要にあわせてファイナンスの研究をもっと充実させていくべきなのかは、難しいですが、どのように研究と教育の内容の整合を取っていくかは重要な課題だと考えます。

もう一つの課題は学生の数学力です。香港では、学生の英語力は高く（大学の授業は英語で行われます）、また発表の技術などは相当に高いと感心します。その一方で、数学の力はそれほどもな

く、数学そのものにも興味を持つ学生は少数派といえます。統計分析そのものは、多くのソフトがあるため、数学を知らなくとも、多くのことが出来てしまいます。しかし、統計分析の基本的な考え方を理解するためには、数学は必要ですし、また、実用という面でも、統計ソフトのヘルプには行列などが登場しますので、ある程度の数学は必要だと思います。このあたりが特にビジネススクールの学生を教えるに当たって問題となる点です。

まとめて見ますと、香港における統計教育は、ファイナンスを中心に、「就職に役立つ」という部分については、多くの学生が興味を持ち、熱心に勉強してくれますし、また大学としても積極的に講座を提供しています。その一方で、「教養としての統計学」、あるいは「統計学の数学的側面」などには、それ自体としては興味を持ってもらえないところが多く、良くも悪くも実用中心の教育が行われていると断言するのはいいのではないのでしょうか。

## 11. 日本統計学会サーバの移転について

広報理事・Web担当  
坂本 亘（大阪大学）

日本統計学会では、ウェブページやメーリングリストなどを管理するサーバを、老朽化と管理体制の見直しに伴い、2月24日（土）に新サーバに移転いたしました。移転作業の間中は、メーリングリストの一時停止など、ご迷惑をおかけいたしました。

新サーバへの移転にあたっては、応用統計学会ならびに統計関連学会連合（以下、連合）が同じく移転を検討していたことから、連合のWeb管理検討委員会の中で意見を調整し、その結果、クラウドオンラインという民間業者のレンタルサーバを共用することになりました。サーバに関する契約は連合がまとめて行い、本会ははじめ利用各学会は

連合に対して若干の費用と管理担当者を負担しています。新サーバの管理はインターネットを通じて行いますが、その殆どはウェブブラウザ上で操作可能で特殊な知識を必要としないのが、導入の利点の一つです。なお、ドメイン名はこれまでと同じjss.gr.jpを使用いたしますので、各種メールアドレスやウェブページのURLなどは変更ありません。

旧サーバの運営にあたっては、約7年間、学術情報ネットワーク（SINET）およびその加入機関である統計数理研究所のネットワーク設備を利用させていただきました。また、中野純司先生（統計数理研究所）、藤原文史先生（東京情報大）を



はじめ関係の皆様には、旧サーバでの管理に多大なご尽力をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

会員メーリングリストについて

新サーバへの移転に伴い、kaiinメーリングリスト(kaiin@jss.gr.jp)をはじめ、本会が運営しているメーリングリストの利用方法や管理体制が若干変わりました。

kaiinメーリングリストの新サーバ移転後の利用方法を以下のウェブページにまとめました。投稿先アドレスは変わりませんが、コマンドなどに若干の変更がありますので、利用の際はご一読くださいますようお願いいたします。

[http://www.jss.gr.jp/ja/links/ml\\_kaiin.html](http://www.jss.gr.jp/ja/links/ml_kaiin.html)

(日本統計学会のトップページからも迎えることができます。左側のメニューから、関連サイト&

ML 統計関連ML, と辿り、日本統計学会会員用メーリングリストの「詳細情報」をクリックしてください。)

kaiinメーリングリストの利用およびメールアドレスの変更には、会員情報の変更が必要です。会員情報の変更の連絡はmeibo@jss.gr.jpにお願いします(ウェブページやコマンドは利用しないでください)。

問い合わせ先

メーリングリストやウェブページ、サーバ管理についてのお問い合わせは、以下にお願いします。

・内容について:

広報担当アドレス: koho@jss.gr.jp

・管理について

管理者アドレス: ad-min@jss.gr.jp

## 12. 修士論文・博士論文の紹介

今年度の修士論文・博士論文の紹介を、(1)氏名、(2)学位、(3)取得大学、(4)論文タイトル、(5)主査または指導教員の順、かつ、原稿の申し出順に記載します。

修士論文

(1) 佐々木 祐介, (2) 修士(数理学), (3) 東京大学, (4) SURモデルにおける信頼性推定量のパラメータ推定と漸近最適性, (5) 吉田 朋広

(1) 浅川 誉, (2) 修士(工学), (3) 東京理科大学, (4) 抗がん剤用量設定のためのCRMの改良に関する研究, (5) 吉村 功

(1) 井上 耕平, (2) 修士(工学), (3) 東京理科大学, (4) マイクロアレイデータにおける正規化法の性能評価, (5) 吉村 功

(1) 河野 亜紀子, (2) 修士(工学), (3) 東京理科大学, (4) 酵素阻害薬の阻害定数の推定における非線形最小二乗法の活用に関する研究 (5) 吉村 功

(1) 鈴木 正人, (2) 修士(工学), (3) 東京理科大学, (4) 慢性閉塞性肺疾患の経時データに

対する欠測値補正法の研究, (5) 吉村 功

(1) 広岡 禎, (2) 修士(工学), (3) 東京理科大学, (4) 要約データを利用したハザード比のメタ・アナリシスの研究, (5) 吉村 功

(1) 高橋 紘士, (2) 修士(理学), (3) 東京工業大学, (4) ブロックデータに対するクリギング法におけるパラメータ推定のためのアルゴリズムの研究, (5) 間瀬 茂

(1) 中戸川 智彦, (2) 修士(工学), (3) 成蹊大学, (4) 対応のある二値データに関する統計的検定法の研究, (5) 岩崎 学

(1) 夏目 珠規子, (2) 修士(理学), (3) 日本女子大学, (4) 高次元データにおける多変量正規分布の母数の検定問題に関する研究, (5) 今野 良彦

(1) 大庭 正裕, (2) 修士(保健学), (3) 東京大学, (4) Public Health Research Foundation ストレスチェックリスト・ショートフォームの基準範囲の推定, (5) 大橋 靖雄

(1) 西内 啓, (2) 修士(保健学), (3) 東京大学, (4) 対立遺伝子欠失データを用いた予後予



測モデルの構築 - 表在性膀胱がんの再発への適用 - , (5) 松山 裕

(1) 佐藤 弘樹, (2) 修士 (保健学), (3) 東京大学, (4) 代替マーカーによって説明される治療効果割合 (PTE) の推定 - 進行前立腺癌に対する臨床試験データへの適用 - , (5) 松山 裕

(1) 田栗 正隆, (2) 修士 (保健学), (3) 東京大学, (4) 共変量の測定誤差を考慮した階層的回帰モデルによる食事データの解析 - 糖尿病合併症に対する大規模臨床試験 (JDC Study) への適用 - , (5) 松山 裕

(1) 荒西 利彦, (2) 修士 (保健学), (3) 東京大学, (4) ブリッジング試験における治療効果の比較に関する overlap coefficient の推定, (5) 松山 裕

(1) 藤丸 達哉, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) 平行モデルにおける多重方向決定, (5) 百武 弘登

(1) 坂上 真一, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) 離散観測における拡散過程のパラメーター推定とファイナンスへの応用, (5) 内田 雅之

(1) 川野 秀一, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) ガウス型基底関数展開法に基づく非線形モデリング, (5) 小西 貞則

(1) 堂園 剛司, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) 正規直交基底に基づく関数データクラスタリング, (5) 小西 貞則

(1) 三角 俊裕, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) 半教師あり学習データに基づく非線形判別, (5) 小西 貞則

(1) 山本 大佑, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) サポートベクターマシーンによる非線形判別と予測誤差推定, (5) 小西 貞則

(1) 横溝 孝明, (2) 修士 (数理学), (3) 九州大学, (4) 混合効果モデルに基づく関数データ解析とその応用, (5) 小西 貞則

(1) 劉 晏, (2) 修士 (経済学), (3) 香川大学, (4) VaR による中国の投資ファンドに関する分析, (5) 姚 峰

(1) 高橋 慎, (2) 修士 (経済学), (3) 東京大学, (4) 高頻度データを用いたボラティリティモデルの構築・推定・比較, (5) 大森 裕浩

(1) 加藤 賢悟, (2) 修士 (経済学), (3) 東京大学, (4) Improved prediction for multivariate normal distributions with unknown mean and variance, (5) 久保川 達也

(1) 菅原 慎矢, (2) 修士 (経済学), (3) 東京大学, (4) Bayesian Estimation for normal form games, (5) 大森 裕浩

(1) 橋本 雄介, (2) 修士 (経済学), (3) 東京大学, (4) 2次元拡散過程における共分散の推定, (5) 国友 直人

(1) 前川 高範, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 長期記憶モデルによる経済データの時系列解析, (5) 熊谷 悦生

(1) 菅谷 勇樹, (2) 修士 (理学), (3) 慶應義塾大学, (4) High-Resolutional Estimation of Disease Locus on a Chromosome, (5) 柴田 里程

(1) 小森 理, (2) 修士 (工学), (3) 慶應義塾大学, (4) ROCカーブにもとづく二群判別法の比較, (5) 柴田 里程

(1) 高橋 徹章, (2) 修士 (工学), (3) 慶應義塾大学, (4) 時系列環境データの統計的モデル化と解析に関する研究, (5) 清水 邦夫

(1) 矢田 和善, (2) 修士 (理学), (3) 筑波大学, (4) Asymptotic Second-Order Consistency For Fixed-Size Estimation When Covariance Matrices Have Some Structures, (5) 青嶋 誠

(1) 磯和 洋道, (2) 修士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) On the Test for Equality of Two Mean Vectors with Missing Data, (5) 瀬尾 隆

(1) 海老原 涉, (2) 修士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) Testing Equality of Mean Vectors and Simultaneous Confidence Intervals with Missing Data, (5) 瀬尾 隆

(1) 片山 英恵, (2) 修士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) On the Distribution of Multivariate Sample Skewness for Assessing Multivariate Normality, (5) 瀬尾 隆

(1) 木村 貴生, (2) 修士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) Likelihood Ratio Test for an Intraclass Correlation Model with Missing Data, (5) 瀬尾 隆

(1) 小池 雄一, (2) 修士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) Likelihood Ratio Test for Covariance Structure in Familial Data, (5) 瀬尾 隆

(1) 大貫 光隆, (2) 修士 (理学), (3) 筑波大学, (4) 変数誤差モデルにおける推定について, (5) 赤平 昌文

(1) 佐藤 純, (2) 修士 (理学), (3) 筑波大学, (4) ファジィ信頼区間とランダム信頼区間について, (5) 赤平 昌文

(1) 池端 利幸, (2) 修士 (理学), (3) 筑波大学, (4) 位置尺度母数分布族に関する漸近的推定について, (5) 小池 健一

(1) 丸尾 和司, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 臨床検査値の参照範囲: その根拠と評価, (5) 狩野 裕

(1) 元垣内 広毅, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 回帰におけるブースティングと縮小推定量およびそれらの効能, (5) 狩野 裕

(1) 山本 崇太, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 項目反応理論における非補償モデルの提案と評価, (5) 狩野 裕

(1) 梅原 武志, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 調査研究におけるSVM判別: 社会科学データ分析に関する諸問題, (5) 狩野 裕

(1) 林 賢一, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) Consistency of penalized risk of boosting methods in binary classification (二値判別問題におけるブースティング法の罰則付きリスクの一致性), (5) 狩野 裕

(1) 福井 威一郎, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) Maritz-Wu-Standard location 推定値のロバストネスについて, (5) 白旗 慎吾

(1) 西海 雄貴, (2) 修士 (工学), (3) 大阪大学, (4) 加速寿命試験データに対するWeibull対数線形モデル, (5) 白旗 慎吾

(1) 野村 俊一, (2) 修士 (情報理工学), (3)

東京大学, (4) 正則有効グラフの短縮型ジグザグ積におけるランダムウォークの収束性, (5) 竹村 彰通

(1) 堀越 保徳, (2) 修士 (情報理工学), (3) 東京大学, (4) ゲーム論的確率論における大数の強法則の収束レートの研究, (5) 竹村 彰通

(1) 松本 直久, (2) 修士 (情報理工学), (3) 東京大学, (4) 回帰モデルの混合を用いた予測の性能評価, (5) 駒木 文保

#### 博士論文

(1) 遠藤 輝, (2) 博士 (工学), (3) 東京理科大学, (4) 臨床試験において量的変数を含む事後因子をバランスさせる被験者割付法の研究, (5) 山口 俊和

(1) 菅波 秀規, (2) 博士 (工学), (3) 東京理科大学, (4) 緑内障治療法評価のための周期線形混合効果モデルの提案とその実用に関する研究, (5) 山口 俊和

(1) W.J.P.S.P. Wijayatunga, (2) 博士 (理学), (3) 東京工業大学, (4) Statistical Analysis and Application of Naive Bayesian Network Classifier, (5) 間瀬 茂

(1) 多賀 伸幸, (2) 博士 (理学), (3) 東京工業大学, (4) Analysis of Loopy Belief Propagation Algorithm based on Gibbs Measure Theory, (5) 間瀬 茂

(1) 宋 明子, (2) 博士 (経済学), (3) 横浜国立大学国際社会科学部研究科, (4) Nonparametric Estimation for the High Frequency Observations of Multivariate Ito Processes, (5) 永井 圭二

(1) 阿部 貴行, (2) 博士 (工学), (3) 成蹊大学, (4) 不完全データに関する統計的推測, (5) 岩崎 学

(1) 田畑 耕治, (2) 博士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) Modeling and Decompositions of Various Symmetry for Categorical Data Analysis, (5) 富澤 貞男

(1) 山本 英晴, (2) 博士 (理学), (3) 東京理科大学, (4) Measures and Decompositions of

Symmetry Model for Multi-Way Contingency Tables ,  
(5) 富澤 貞男

(1) 伴 正隆 , (2) 博士 (経営学) , (3) 東北  
大学 , (4) Measuring Effectiveness of TV  
Advertising for Heterogeneous Consumer , (5) 照井  
伸彦

(1) 土居 主尚 , (2) 博士 (保健学) , (3) 東  
京大学 , (4) 確率的補完法による欠測データの解  
析 - 大規模疫学研究 (日本動脈硬化縦断研究 ;  
JALS) データへの適用 - , (5) 松山 裕

(1) 来嶋 秀治 , (2) 博士 (情報理工学) , (3)  
東京大学 , (4) マルコフ連鎖モンテカルロ法にお  
ける近似精度保証と完璧サンプリング法 , (5) 松  
井 知己・杉原 厚吉

(1) 竹内 明香 , (2) 博士 (経済学) , (3) 一  
橋大学 , (4) オプション価格差の実証分析 , (5)  
渡部 敏明・加納 悟

(1) 藤井 孝之 , (2) 博士 (理学) , (3) 大阪  
大学 , (4) Asymptotic Properties for the Maximum  
Likelihood Estimator in Non-Regular Cases (非正則  
な最尤推定量の漸近的性質) , (5) 白旗 慎吾

(1) 田中 冬彦 , (2) 博士 (情報理工学) , (3)  
東京大学 , (4) Geometrical Approach to Classical  
and Quantum Bayesian Prediction , (5) 竹村 彰通

(1) 岡部 正浩 , (2) 博士 (統計科学) , (3)  
総合研究大学院大学 , (4) Bayesian Estimation of  
Repulsive Interaction Potential Models for Spatial  
Point Patterns , (5) 田村 義保・種村 正美

(1) 謝 剛強 , (2) 博士 (統計科学) , (3) 総

合研究大学院大学 , (4) M-Decomposability and  
Elliptical Unimodal Densities , (5) 平野 勝臣・中  
野 純司

(1) 片岡 淳 , (2) 博士 (学術) , (3) 総合研  
究大学院大学 , (4) モーゲージ債のリスクとその  
パラメータセンシティブリティの評価に関する研  
究 , (5) 中野 純司・田村 義保

(1) 福田 公正 , (2) 博士 (学術) , (3) 総合  
研究大学院大学 , (4) 情報量規準による単位根と  
構造変化の実務的分析 , (5) 川崎 能典・田村 義  
保

(1) 若浦 雅嗣 , (2) 博士 (統計科学) , (3)  
総合研究大学院大学 , (4) Analysis of Surface Air  
Temperature Anomalies , (5) 田村 義保・尾形 良  
彦

(1) 田中 潮 , (2) 博士 (学術) , (3) 総合研  
究大学院大学 , (4) Parameter estimation and model  
selection of the Neyman-Scott type spatial cluster  
models , (5) 種村 正美・尾形 良彦

(1) 矢野 浩一 , (2) 博士 (統計科学) , (3)  
総合研究大学院大学 , (4) Nonlinear, Non-  
Gaussian, and Non-stationary State Space Models and  
Applications to Economic and Financial Time Series ,  
(5) 田村 義保・佐藤 整尚

(1) 中村 和幸 , (2) 博士 (学術) , (3) 総合  
研究大学院大学 , (4) Sequential Data Assimilation  
and Its Application to Tsunami Analysis in the Japan  
Sea , (5) 土谷 隆・樋口 知之

## 13. 公募情報

名古屋大学大学院情報科学研究科  
計算機数理科学専攻情報数理モデル論講座

1. 公募対象: 教授 1名 (名古屋大学大学院情  
報科学研究科・計算機数理科学専攻情報数理モ  
デル論講座)
2. 専門分野: 量子情報理論, 量子計算, 量子通  
信などの数理科学分野

3. 担当科目: 大学院情報科学研究科・情報文化  
学部における情報数理関連科目, および全学共  
通教育科目 (線形代数学, 微分積分学など)
4. 応募資格: 博士の学位を有すること
5. 着任予定時期: 2008年4月1日
6. 提出書類:
  - (1) 履歴書 (写真つき)
  - (2) 研究業績リスト (著書, 査読付学術論文,

- 国際会議，講演などを区別して記述すること，また主要な論文数編に印を付すこと)
- (3) 5編程度の主要な論文の別刷あるいはそのコピー，プレプリント（雑誌掲載予定のものはその旨を示す文書のコピー等を添付すること)
- (4) これまでの研究内容と今後の研究計画（A4版2枚程度，主要な論文における研究成果を引用して記載すること)
- (5) 教育に関する実績と抱負（A4版1枚程度)
- (6) その他，受賞歴，学会活動など選考にあたって参考となる資料
- (7) 応募者の業績について問い合わせることのできる方2名の氏名と連絡先

7. 応募期限：2007年5月31日（木） 必着
8. 書類提出先および問い合わせ先：  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院情報科学研究科  
計算機数理科学専攻長 松原 洋  
電話：052（789）4834  
E-mail: yom@is.nagoya-u.ac.jp
- 封筒に「計算機数理科学専攻教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留で郵送して下さい。
9. 選考の過程で講演をお願いすることがあります。
10. 本学では採用に際して男女共同参画に配慮しております。

以上

## 14. 評議員会議事録

2006・2007年度 第2回評議員会議事録

日 時：2006年11月18日（土）13：30 - 15：20

場 所：統計数理研究所 講堂

出席者：山本拓会長，田中勝人理事長，評議員：  
伊藤彰彦，稲葉弘道，川崎能典，北川源四郎，  
国友直人，栗木哲，栗原考次，小西貞則，駒木  
文保，清水邦夫，杉浦成昭，杉山高一，瀬尾隆，  
高橋一，竹村彰通，田中豊，大戸隆信，馬場康  
維，樋口知之，福井武弘，藤井光昭，藤越康祝，  
牧野都治，矢島美寛，吉田朋広，若木宏文  
(以上28名，委任状12通)  
(オブザーバ：黒住英司)

冒頭，会長より，評議員会の成立が宣言され，オブザーバ1名の参加が承認された。

報告事項：

<議題1> 理事会からの報告

- 1) 田中理事長より，資料に基づいて2006・2007年度の理事会の構成と方針が説明された。
- 2) 田中理事長より，横幹連合の担当者は田村義保氏，日本経済学会連合の担当者は西郷浩氏と坂野慎哉氏となることが説明された。

3) 川崎能典評議員（庶務担当理事）より，資料に基づいて科研費の公開促進費に関する現状と問題点ならびに今後の課題について説明があり，今後は学会誌の発行社選定に関して競争入札を行わなければならない可能性があることが説明された。

4) 山本会長より，2007年度連合大会は主催がこれまでの3学会に加え，日本行動計量学会および日本計算機統計学会が加わり，5学会が主催となることが報告された。また，連合大会でのプログラム配布の是非について意見が交換され，今後はプログラムの印刷を廃止し，WEB上でプログラムのPDFファイルを公開するという方向で検討することとなった。

<議題2> 学会賞会計報告

山本会長より，資料に基づいて学会賞の会計が報告された。

<議題3> 研究部会最終報告

山本会長より，資料に基づき研究部会「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」（主査：若木宏文）の活動内容が報告された。

<議題4> 研究分科会活動最終報告

1) 杉山評議員より，資料に基づき「統計シミュ

レーション研究分科会」(主査：杉山高一)の活動内容が報告された。

2) 山本会長より、資料に基づき「計量経済・計量ファイナンス分科会」(主査：山本拓)の活動内容が報告された。

3) 山本会長より、資料に基づき「統計教育部会(分科会)」(主査：村上征勝)の活動内容が報告された。

<議題5> 75周年記念事業委員会からの報告

杉山評議員より、75周年記念事業のこれまでの活動状況並びに今後の予定が報告された。また、資料に基づき、12月に開催予定である第2回研究集会の詳細について説明があった。

<議題6> 学会組織特別委員会から

田中豊評議員より、第1回学会組織特別委員会を11月18日に開催する予定であることが報告された。

審議事項：

<議題7> 研究部会，研究分科会の新設

1) 資料に基づき「マーケティングへの統計科学アプローチ研究部会」(主査：照井伸彦)の新設が審議され、了承された。

2) 資料に基づき「計量経済・計量ファイナンス分科会」(主査：国友直人)の4年間の継続申請が審議され、了承された。

<議題8> 監事の選任

田中理事長より、資料に基づき2006・2007年度監事を久保川達也氏と瀬尾隆氏に委嘱すること、また、選挙管理委員を永井圭二氏と南美穂子氏に委嘱することが提案され、了承された。

<議題9> 春季大会について

学会活動特別委員会の清水主査から、統計学会独自の春期大会・シンポジウムなどを2007年3月10日(土)に開催することが提案された。各評議員からの意見に基づき、シンポジウム形式の開催、ポスターセッション、会長就任式の開催、海外からの招待講演、などが検討された。その結果、シンポジウムもしくは研究集会を2007年3月10日(土)に開催すること、また、場所・企画・プログラムなどの詳細は清水主査、山本会長ならびに田中理事長に一任することが決められた。

<議題10> 欧文誌特別号の発刊について

山本会長より、資料に基づき赤池弘次氏の京都賞受賞に合わせた欧文誌特別号の発刊が提案され、了承された。

<議題11> 次期会長候補者の選出

山本会長より、資料に基づき次期会長選出の日程ならびに選出方法について説明が行われた。続いて山本会長より、回収資料に基づいて次期会長候補者の被推薦人の紹介が行われた後、評議員による投票が行われ、北川源四郎評議員が次期会長候補者として選出された。

<議題12> 評議員会への出欠の連絡について

山本会長より、資料に基づき評議員会への出欠連絡を電子メールで行う提案が川崎茂評議員からあったことが説明された。審議の結果、今後、評議員会への出欠およびその他の連絡を電子メールで行うことが了承された。

<議題13> 次回評議員会の開催について

山本会長より、次回評議員会は2007年連合大会の時に開催する事が提案され、了承された。

## 15. 理事会議事録

2006・2007年度 第2回理事会議事録

日時：2007年1月27日(土) 12:00~15:30

場所：統計数理研究所 会議室

出席者：北川源四郎会長，田中勝人理事長，大森裕浩(会誌編集・和文)，勝浦正樹(大会企画)，宮田敏(大会企画)，谷崎久志(広報・会報)，

坂本亘(広報・HP)，高橋一(渉外・一般)，小暮厚之(渉外・海外担当)，田村義保(渉外・プロジェクト研究)，今野良彦(大会事務局担当)，駒木文保(庶務会計)，黒住英司(庶務会計)，川崎能典(庶務会計)，竹田裕一(75周年記念事業)，井上潔司(幹事・大会事務局)



(以上16名,カッコ内は役割分担)

報告事項:

<議題1>会長からの報告

冒頭,北川会長より,就任の挨拶があった。

<議題2>理事長からの報告

田中理事長より,以下の3件の報告があった。

(1)連合理事会について

資料に基づき連合理事会において,統計科学振興のための提言,他学会の統計関連学会連合への勧誘,連合事務の外部委託,が検討されていることが報告された。

(2)理事会メンバーについて

日本統計学会のサーバー管理の担当者として,新たに幹事を1名任命したことが報告された。

(3)春季大会について

資料に基づき日本統計学会春季集会2007が3月10日に開催されることが報告された。

<議題3>各理事からの報告

[会誌編集・欧文]

欠席の谷口担当理事に代わり,田中理事長より,赤池弘次氏の京都賞受賞に伴う学会誌特別号は,通常の欧文誌とは別枠で発行する方針が確認された。

[会誌編集・和文]

大森担当理事より,和文誌への投稿を広く呼びかけるよう,要請があった。

[広報・会報]

谷崎担当理事より,会報No.130の準備が順調に進んでいることが報告された。また,春季集会のプログラムに受付開始時刻9:30,参加費は無料であることを明記した上で,プログラムを会報No.130に同封することが確認された。

[広報・HP]

坂本担当理事より,英文ホームページ上の広報および渉外担当理事の英語名の変更案が提案され,native speakerの意見を聞いた上で確定することとなった。また,資料に基づき統計学会サーバー移転に関する説明があり,費用負担,人的負担,サーバー移転日案(2/24),MLの登録アドレスの

再構築の必要性が提案され,了承された。なお,移転に関連して2月24,25日はメールの使用を中止すること,統計数理研究所および国立情報学研究所へのサーバー移転の連絡が必要であることが確認された。

[渉外・一般]

高橋担当理事より,2008年度連合大会開催会場の候補地選定の状況が報告された。

[渉外・海外担当]

小暮担当理事より,2007年は日本統計学会から韓国統計学会へ講演者を派遣する予定であることが報告され,講演者の選定は会長・理事長に一任することが了承された。

[大会企画]

勝浦担当理事より,資料に基づき第1回企画委員会の内容が報告され,また,企画セッションとなる会長講演を勝浦担当理事から申し込むことが確認された。

[大会事務局]

今野担当理事より,2006年統計学会連合大会開催期間中の評議員会の準備および会費の徴収業務を外部事務員に委託していたことが説明された。2007年は,連合大会事務局が外部委託事務員を招聘して連合大会の事務補佐を依頼する一方,同事務員に日本統計学会評議員会準備の業務を時間外業務として委託することが提案され,了承された。連合大会開催中の会費徴収に関しても同事務員への時間外業務委託が提案され,2006年の大会当日払いの人数を把握した上で,会長・理事長・庶務理事に判断が一任された。また,連合大会の案内状に,大会開催場の住所を明記してほしいという意見があった。

[庶務]

黒住担当理事より,資料に基づいてJ-STAGEの利用規約改定案について説明があった。川崎担当理事より,(1)会長選挙の結果が報告され,次回から選挙投票用紙の郵送料受取人払いが検討された,(2)資料に基づき研究部会・分科会の中間報告が紹介された,(3)研究成果公開促進費の助成に関して政府側から,データベースの公開,適正

な在庫見積り、出版社の競争入札、が要請されていることが説明され、これらの事項に関して会長・理事長・庶務理事が適宜判断していくこととなった、(4) 海外からの入会申し込み方法のアップデートの必要性が説明され、意見が交換された。駒木担当理事より、次回理事会で2006年決算案が提出されることが説明され、また、学会欧文誌を海外のassociate editorに送付することが確認された。

#### [ 75周年記念事業 ]

竹田担当理事より、75周年記念事業の記念集会在12月に開催されたことが報告され、記念事業は6月まで活動することが説明された。

#### [ 幹事・大会事務局 ]

井上担当理事より、就任の挨拶があった。

#### [ プロジェクト研究 ]

田村担当理事より、横幹連合のアンケートへの回答が依頼され、横幹連合の秋の大会について説明があった。また、統計学会独自のロードマップの作成が提案された。

#### < 議題 4 > 春季集会について

田中理事長より、資料に基づき春季集会の内容と費用について説明があった。

#### 審議事項：

#### < 議題 5 > 適切な競争的研究資金制度の在り方

田村理事より、研究資金の在り方についての意見交換が提案され、今後の競争的研究資金の獲得のためにも、統計学会が積極的に種々の提言を行っていく必要がある、各個人が積極的に競争的研究資金へ応募することが必要である、等の意見があった。

#### < 議題 6 > 入退会者の承認

回覧資料により入退会者について説明があり、了承された。また、凍結会員に関しては積極的に督促を行うこととなった。

#### < 議題 7 > 日本学士院会員の推薦について

北川理事長より、日本学士院会員の欠員補充について説明があり、統計学会からの推薦者選定を会長・理事長に一任することが提案され、了承された。

#### < 議題 8 > その他

今回の理事会は5月19日に開催することとなった。

## 16. 新刊紹介

浅野長一郎・竹内光悦著『計数データの実践的解析法』共立出版（価格：3500円＋税）2006年8月

種々の離散データの分析に必要な基礎的諸法を網羅し、各々に判り易い解説と数値例を示している。更に、これら66編の全分析法を含めたFADAシステムを実行形式でWEB上に提供した。これらは特別な数学的条件が不要なので大量データの分析にも適用できる。

足立浩平著『多変量データ解析法 - 心理・教育・社会系のための入門 - 』ナカニシヤ出版（価格：税込み2,730円）2006年7月

文科系学生の入門テキストとして、主成分・重

回帰・因子分析や構造方程式モデルなどを解説している。平易な説明をめざして、例えば「回帰モデル：成績 =  $b \times$  出席率 +  $c$  + 誤差」のように、「変数は具体例の言葉、パラメータは記号」という表現をとっている。

清水邦夫著『損保数理・リスク数理の基礎と発展 - クレームの分析手法 - 』共立出版（価格：3300円＋税）2006年11月

損害保険数理において現れる個別的リスクモデルおよび集団的リスクモデルの理解を目的として、クレームの分析手法の主に統計的分布論の側面を詳説した。

## 17. 事務局から

### 投稿のお願いとお知らせ

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。新刊の紹介なども歓迎いたします。

来日統計学者の紹介につきましては、訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお寄せ下さい。さらに、求人案内（教員公募）なども受け付けております。

できるだけE-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

### 原稿送付先

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1  
神戸大学大学院経済学研究科 谷崎 久志 宛  
Tel: 078-803-6831 Fax: 078-803-6831  
E-mail: koho@jss.gr.jp  
(統計学会広報連絡用E-mailアドレス)

### 学会費払込のお願い

2007年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F  
財団法人 統計情報研究開発センター内  
日本統計学会係  
Tel & Fax: 03-5467-0483  
E-mail: shom@jss.gr.jp

### 訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、ご冥福お祈り申し上げます。

五十嵐 嘉子 会員

### 退会者

有賀真由美, 岩原香織, 小笠原充宏, 金澤弘雄, 熊代等, 黒岩好夫, 清水隆邦, 白鞘康嗣, 末石直也, 橋本隆正, 福本武明, 松原義弘, 萬代三郎, 山田作太郎

### 現在の会員数 (2007年4月13日)

名誉会員	24名
正会員	1500名
学生会員	43名
総計	1567名
賛助会員	17法人
団体会員	4団体

- ・統計学会ホームページURL：  
<http://www.jss.gr.jp/>
- ・統計関連学会ホームページURL：  
<http://www.jfssa.jp/>
- ・住所変更連絡用e-mailアドレス：  
meibo@jss.gr.jp
- ・広報連絡用e-mailアドレス：  
koho@jss.gr.jp
- ・その他連絡用e-mailアドレス：  
shom@jss.gr.jp